

2/2

公開実用 昭和 59 — 49649

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭59—49649

⑫ Int. Cl.⁸

B 65 D 47/44

A 45 D 34/04

識別記号

庁内整理番号

8208—3E

6671—3B

⑬ 公開 昭和59年(1984)4月2日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ 塗布栓

⑮ 考 案 者 鈴木一男

東京都江東区大島3の2の6株
式会社吉野工業所内

⑯ 実 願 昭57—144238

⑰ 出 願 昭57(1982)9月22日

⑱ 出 願 人 株式会社吉野工業所

⑲ 考 案 者 斉藤忠雄

東京都足立区千住河原町112

東京都江東区大島3丁目2番6
号

FP04-0395-00WD -XX
05.3.15
SEARCH REPORT

Best Available Copy

明 細 書

1. 考案の名称 塗布栓

2. 実用新案登録請求の範囲

びん口部B等へ嵌合するシリンダ1を設け、該シリンダに出没摺動自在に筒体2を内装すると共に、該筒体を外側へ被せるキャップCにより押し下げ可能に構成し、且つ、該筒体2をシリンダ1に装備したスプリング4により上方へ付勢し、筒体2の下部とシリンダ1の下部との間に筒体の下降で該筒体内を閉塞する弁機構5を設けたことを特徴とする塗布栓。

3. 考案の詳細な説明

本案は、ファンデーション等の液体化粧料、各種塗布用薬液、その他に使用する塗布栓に係る。

本案は、この種のものにおいて、栓体内部にキャップの着脱で自動的に開閉される弁機構を内蔵させて不用時の液洩れを防止すると共に、使用に便利にしようとするものである。

以下、図示の実施例について説明する。

第1図は、実施の一例であり、図において、A

(1)

350

実開59-49649

公開実用 昭和59-49649

は、本案に係る塗布栓、Bは、該塗布栓を嵌着した塗布用液体収容びんの口部、Cは、塗布栓に被着しびん口部へ螺合したキャップであり、いずれも合成樹脂製である。

塗布栓Aは、びん口部C内に嵌挿するシリンダ1と、該シリンダに上下摺動自在に内装した筒体2と、該筒体の上端部に固定した塗布先3と、シリンダ1の下部に内装して筒体2を上方へ付勢するコイルスプリング4と、シリンダ1の下端部と筒体2との間に構成した弁機構5と、シリンダ1の上方に外装して筒体2を抜け止めするリング6とから成る。

シリンダ1は、上部において、外周にびん口部Bの頂面へ衝合させる外向きフランジ11を突設すると共に、上方へ起立する案内筒12を設け、該案内筒には縦の割込みからなる左右一対の案内溝13、13を設けている。

筒体2は、上部両側面に左右一対の腕21、21を突設して上記案内溝13、13へ上下動自在に貫通させ、上端部をやや小径の塗布頭22に形成し、下端

部にシリンダ1内面と水密に且つ摺動自在に嵌合するスカート23を形成している。

塗布先3は、筆毛またはスポンジ棒からなり、基部を上記塗布頭22内へ嵌着固定して塗布頭から上方へ突出させている。

コイルスプリング4は、下端部をシリンダ1の下端部に支持させ、上端部を筒体2の下面へ圧接している。

弁機構5は、シリンダ1内の下端部中央に弁棒51を配して、該弁棒をシリンダ1の下端部へ複数の連結片52…を介して一体に連設し、下降した筒体2の下端部内周がその弁棒へ水密に嵌合し閉塞されるようにしている。

リング6は、頂壁61から内周壁62及び外周壁63を垂設し、内外両周壁62, 63にて上記案内筒12の上端へ挟着固定している。

びん口部Bは、外周に螺条Baを周設している。

キャップCは、周壁Caの上部を小径に、且つ、下部を大径に形成し、下部内周に上記螺条Baと螺合する螺条Caを周設し、内周の中途部に上記外向

公開実用 昭和59— 49649

きフランジ11の上面へ衝突する下向き段部Cbと上記腕21, 21を押し下げる下向き段部Ccとの2段の下向き段部を形成している。

如上の構成であるから、キャップCを螺着した第1図の状態では、筒体2が腕21, 21にてキャップCの下向き段部Ccにより押し下げられて下降しており、また、弁機構5において筒体2の下端が弁棒51に嵌合して閉じており、びん内の液体の流出が阻止されている。

次に、キャップCを螺脱すると、筒体2がスプリング4の弾力により上昇して、腕21, 21がリング6に突き当つて止まり、弁機構5において筒体2の下端が弁棒51から離間して開となる。従つて、びんを傾倒させることでびん内の液体が弁機構5を流通し、筒体2内を通つて塗布先3に含浸され、所要箇所へ該塗布先を以て塗布できる。

その後、再びキャップCを螺着すると、筒体2がスプリング4に抗して押し下げられて、元の状態に戻る。

第2図は、他の実施例であり、この場合は、前

例のものにおいて、筒体2の下端のスカートに代えて別部材の筒状ピストン24を筒体2の下端部に嵌着しており、これに対応させて弁機構5の弁棒51を小さく形成している。

その他は、前例と同じであり、同様の動作が得られる。

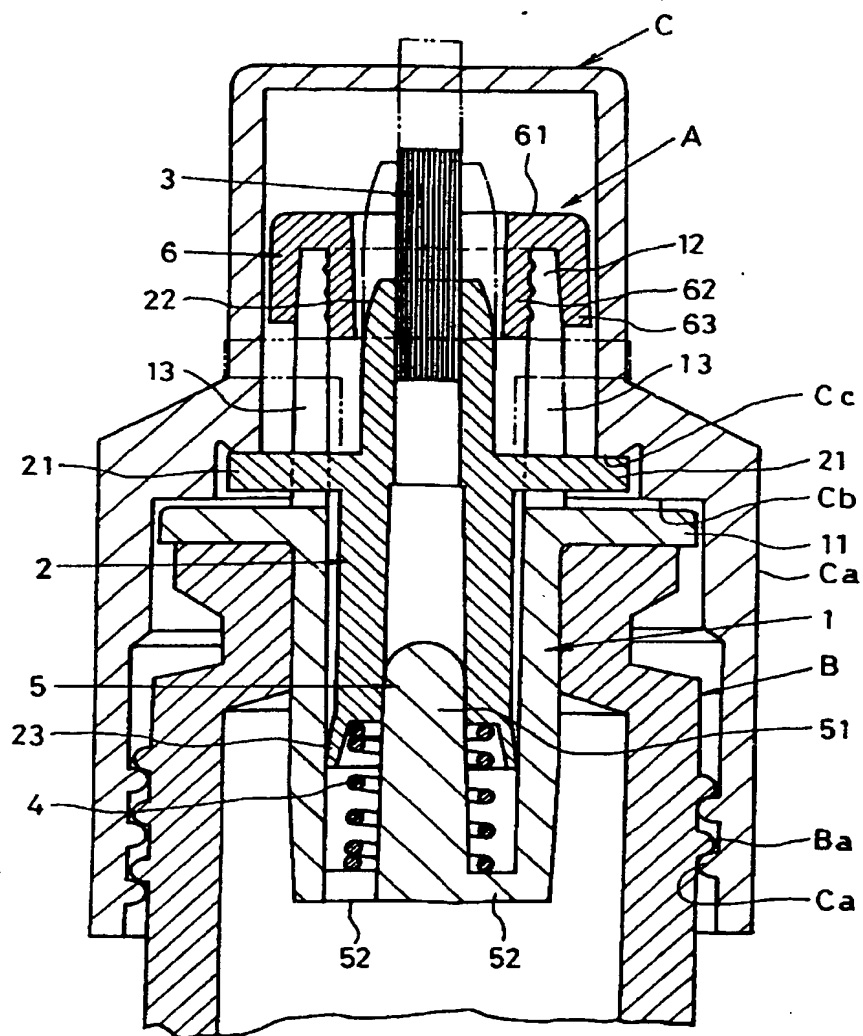
本案によれば、栓体内にキャップの着脱で自動的に開閉される弁機構5を有し、従つて、不用時に液洩れを防止でき、また、弁機構を別途に開閉する必要がなくて使用上頗る便利重宝である。

4. 図面の簡単な説明

図面は、本案実施例で、第1図は、一例の縦断側面図、第2図は、他の例の縦断側面図である。

- | | |
|-----------|----------|
| A … 塗布栓 | B … びん口部 |
| C … キャップ | 1 … シリンダ |
| 2 … 筒 体 | 3 … 塗布先 |
| 4 … スプリング | 5 … 弁機構 |
| 6 … リング | |

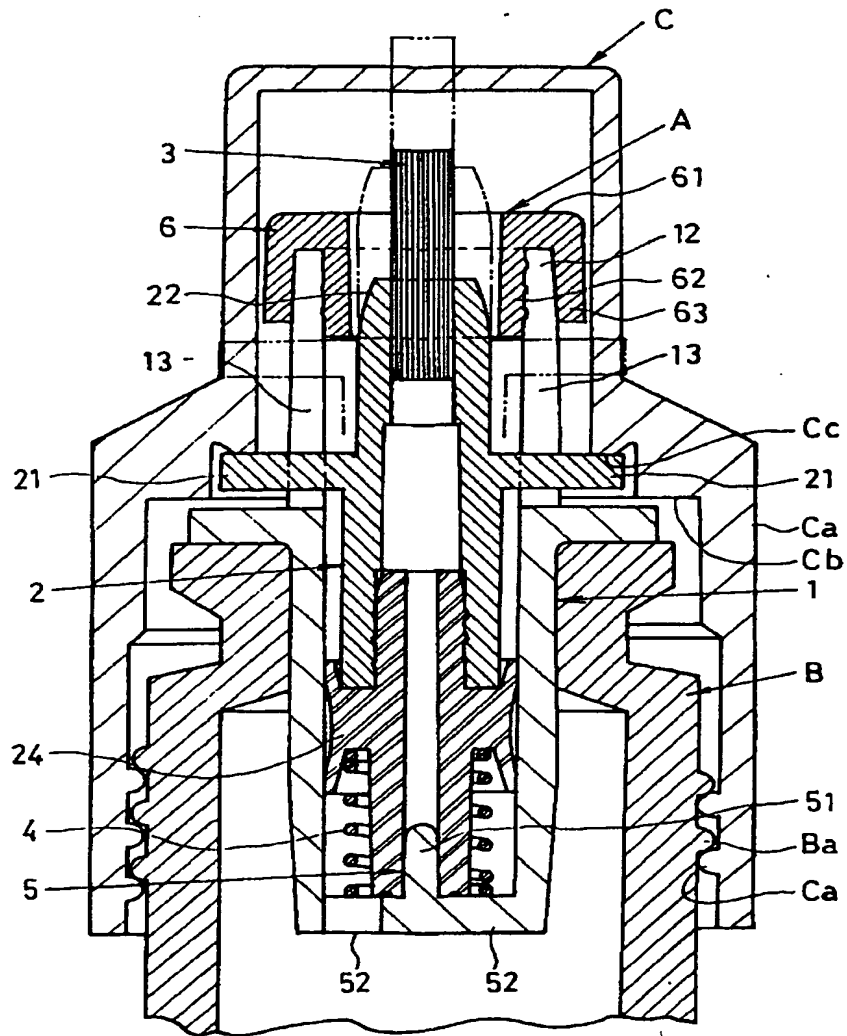
第 1 圖



出願人 株式会社吉野工業所
代表者 吉野 弥太郎

表冊 59-19649

第2図



386

出願人 株式会社 吉野工業所

代表者 吉野 弥太郎

実開59-49649

Best Available Copy